

平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|---|
| 事業名 | 「上原良司とくいま>を生きる わだつみのこえ戦後70年の集い」の開催 |
| 事業主体 (連絡先) | わだつみのこえ70年の会 代表 西村忠彦 (松本市征矢野2-1-80 田中健太郎方) |
| 事業区分 | (3)教育及び文化の振興に関する事業 (1)地域協働の推進に関する事業 |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 1,613,619円 (うち支援金:529,000円) |

事業内容

戦後70年の節目にあたる2015年、郷土出身の特攻隊員・上原良司の事績の紹介などを通して、次代を担う若い世代(高校生)と一緒に平和の大切さを考える事業を通年開催した。

1. 県内高校生の平和に関する感想文コンクール実施
2. 春の集い／上原良司を学ぶ現地学習講座の開催
3. 夏の集い／「わだつみのこえ戦後70年の集い」開催
4. 秋の集い／市民公開講座の開催
5. 冬の集い／市民公開講座(講師による鼎談)の開催
6. 活動報告書の刊行



【感想文コンクール表彰式】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 感想文コンクールには高校生697人が応募。夏の集いのシンポジウムや意見発表では、高校生が壇上から堂々と自分の考えを発言した。
- ② 夏の集い開催では高校生から80代まで幅広い世代が協働で事前準備や当日運営を担当するなど、年間の活動を通して、世代を超えて疎通を深めることができた。
- ③ 事業開催についてはテレビの全国ニュースや全国紙の社会面でも紹介され、県内にとどまらず広く全国各地から賛同・共感の声や事業への問い合わせをいただくなど、大きな反響をよんだ。

【目標・ねらい】

- ① 高校生が「考える力」を身につける取り組み
- ② 主役は高校生、大人は黒子
- ③ 平和への関心を高める

※自己評価【 A 】

【理由】

製作した参考資料「上原良司ハンドブック」を、人権平和学習の教材として活用した高校が県内で多数あるなど、地域の活性化に向けて、事業への参加者実数に留まらない大きな成果をもたらした。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

「わだつみのこえ70年の会」の活動は今後も継続する予定。次年度以降の活動の具体案としては、刊行した『活動報告書』を教材にした勉強会の開催や現地学習講座(「無言館」「満蒙開拓平和記念館」等の見学)の開催など、今年度と同様に、高校生をはじめとする若い世代が参加可能な事業実施を優先して活動したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

- 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある